

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	通信会社（社員）	・携帯電話の新機種・新サービスの発売がスタートする。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・客の購買意欲が高まっており、購買量も増加している。これから売上が伸びる気配を感じる。
		百貨店（営業担当）	・初夏から夏にかけて、カジュアルシューズ、仕事にも遊びにも使えるはん用性の高いバッグなどライフスタイルにフィットした売れ筋商品の動きが良くなる。ファッション全般でもジーニングスタイルが年代に関係なく定着しそうな感じである。昨年と異なるのは流行が芽生えていることであり、これらの商品が売れる。
		百貨店（営業担当）	・ミセスのカジュアルウェアがヒットしており、コーディネートを意識した購入が多いため単価がアップしている。また、旅行用の購入も期待できる。
		スーパー（店長）	・直近のゴールデンウィーク需要で大型のキャリーバッグが売れている。また、食材においても質を優先する顧客が増え、客単価のアップにつながる。ライフスタイルや上質をキーワードにして商品が売れる時代は上昇景気とみる。
		スーパー（営業担当）	・客は消費税の総額表示にも慣れ、ペイオフ問題に対しても落ち着いてきている。生鮮食品については、値ごろ感のある商品を品ぞろえすることにより、今後伸ばす余地はある。
		コンビニ（店長）	・周辺に住宅地の開発が進んでいる。当店の前にも約100棟の集合住宅が建築中であり、今後集客が期待できる。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・やや閉そく感のあった昨年と比較すると、今年は高額商品であるダイエット及び健康食品の動きが非常に良く、先行きは明るい。
	通信会社（営業担当）	・携帯電話の新サービス・新機種が続々登場し、来客数や販売量の増加が期待できる。	
	変わらない	百貨店（営業担当）	・季節商品の需要の前倒しが進んでいるため、2、3か月先には夏物セールの前倒しが考えられる。この結果、夏物衣料の売上は伸びるが、その先の息切れが予想され、全体の数字は上がらない。
		スーパー（総務担当）	・競争の激化により来客数が増える要素はなく、単価もほとんど変わらない。小売業では現状が続く。
		スーパー（副店長）	・この先の天候不順や客の堅実な節約志向は長引くと予想され、依然として消費の上昇は期待できない。
		家電量販店（経営者）	・今年は家電の需要を喚起するイベントもなく、猛暑でエアコンが異常に売れた前年の反動から、夏場にかけて厳しい状況が予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・先行きに対する不安から代替需要の展開がなかなか進まない。
乗用車販売店（経理担当）		・原油の高騰でガソリン単価が上昇しているため、自動車販売には不利な状況が続く。また、販売車種も現在と変わらないため、現状維持が精一杯である。	
やや悪くなる	自動車備品販売店（従業員）	・客の商品選択に対する慎重な傾向は定着しており、今後も変わらない。	
	一般レストラン（スタッフ）	・愛知万博の影響を受けて、地元での来客数は伸びない。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況を見る限り、現状と変わらない。	
	旅行代理店（従業員）	・愛知万博に期待して積極的にPRしているが、客の反応は鈍い。	
	設計事務所（職員）	・住宅展示場への来客数が少なく、1件当たり新築単価が低下している現状は当面変わらない。	
	住宅販売会社（従業員）	・当社で注力中の分譲住宅が8月ごろから多数販売されるが、それまでは現状のままである。	
やや悪くなる	住宅販売会社（総務担当）	・新商品の投入や人材の採用増などにより、販売の拡大を目指すのが、外部要因による消費心理の冷えこみが心配である。	
	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・愛知万博の影響から、2～3割の落ち込みを予測している取引先もある。	
	百貨店（営業担当）	・盛夏に向けてのヒット商品が見当たらず、水着もデザイン上の大きな変化や特徴がない。	
		スーパー（店長）	・牛肉の値上げがマイナス要因である。また、地元では乗用車の保有台数が多いため、ガソリンの値上げが家計を直撃し、食品の購入に悪影響を及ぼす。

		スーパー（店長）	・地元のスーパー同士の競争が激しいことに加え、県外資本の参入もあり、客の奪い合いから価格競争がますます激しくなる。
		コンビニ（経営者）	・客との会話の中では、これから愛知万博などの行楽に出かけるという話題が多く、当店でのご購入に影響が出る。
		観光型旅館（経営者）	・愛知万博の影響が、夏すぎまでの予約客数が前年に比べ約10%落ちている。また、予約の発生が間近になっており、先が読みにくい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・婚礼の売上は実施件数の減少により減収となる見込みで、回復の兆しがみえてこない。
		タクシー運転手	・ここに来て、新規参入に名乗りを挙げた業者があり、2、3か月先にはタクシー台数がますます増加し、厳しくなる。また、愛知万博のため、地元への観光客が確実に減少し、タクシーの利用が減る。
		タクシー運転手	・利用客が少ないことに加え、新規業者が増加し、駅、空港、病院などではタクシーがあふれている。さらに、待機タクシーの台数が制限されたため、売上の底上げをねらった待機ができず、先行きは更に厳しい。
	悪くなる	テーマパーク（職員）	・愛知万博のPRが本格化するにつれ、逆風は更に強くなり、現状を上回る厳しい集客状況が続く。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般機械器具製造業（経営者）	・現在の受注残高がパブル当時よりも多く、過去のピークを更新したこと、価格が上向きつつあること、自動車関連の受注が多いことなど、好材料がそろっている。
		通信業（営業担当）	・今後、取引先ではIP電話へのシフトでコストを削減する動きが出てくる。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・今月の受注量が前年同月比で増加してきたことや、新規開店の店が徐々に出始めていることなど、明るい兆しがみえてきた。
	変わらない	電気機械器具製造業（経営者）	・売上は若干減少すると予想しているが、仕入れ態勢の見直しによる徹底したコストの削減で対応していく。
		精密機械器具製造業（経営者）	・現在の受注量は年初の予測以上に抱えているものの、小売の状況には依然として確たる上向き感が少なく、地場産地として踊り場の状況が続いている。
		通信業（営業担当）	・携帯電話市場の飽和から新規契約が伸び悩んでおり、また月々の使用料にも明るい材料が見当たらない。
		金融業（融資担当）	・製造業の受注残は消化できない状態で、これ以上の稼働は望めない。一方、トラック運送業やサービス業の原油高騰によるコストアップが先行きの収益に大きな影響を与える。
		不動産業（経営者） 司法書士	・不動産の動きは依然鈍く、今後も変わらない。 ・複数の会社が設立される一方で、20年以上も営業を続けている企業が負債を抱えて整理するという相談もある。
		やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）
		金属製品製造業（経営者）	・先行きの受注残高が減少している。
	悪くなる	建設業（総務担当）	・鋼材価格の更なる上昇が見込まれ、工事原価の増加要因となる。受注価格競争が激しいなかで、景気の回復は到底望めない。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	民間職業紹介機関（経営者）	・自動車関連企業の数社で夏、秋の完成に向けた工場増設が進んでおり、求人需要が増加する。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・正社員からのシフトもあって派遣求人数は増加している。また、リストラを実施中の企業も減少傾向とはいえず目につく状態であり、景気の不透明感はぬぐえない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・3、4月の季節的要因による募集は減少するが、アウトソーシング系企業の積極的な求人は引き続き見込まれ、全体として大きな変化はない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人数は大幅に増加した昨年と同様の水準であるが、年初からあまり勢いがいない。
		職業安定所（職員）	・建設関係の求人が減少しており、また若年者の就職件数が前年比で減少している。
		職業安定所（職員）	・派遣や請負求人においてパートの割合が大きくなっており、この現状が続く。
		やや悪くなる	-
	悪くなる	-	-